

## 冬季における大阪城の樹林性鳥類相

楠瀬雄三（ひとはく地域研究員）・福井 亘（京都府立大学大学院）

### はじめに

寒い冬はつつい外に出るのを遠慮してしまいがちですが、冬こそ手軽に鳥を観察するのに適した季節といえます。それは、冬になると山地にいた鳥たちが平地へ降りてくるので、身近な所でもいろんな鳥に出会える機会がグッと増えるからです。大阪城公園はそんな場所の一つです。本発表は、大阪城で4年間に会った鳥たちの記録です。

### 調査方法

観察期間は2004年1月から2007年2月のうち、主に11月から3月の冬季です。観察場所は年によって多少の違いがありますが、主に音楽堂の西側と豊国神社の南側を中心に、市民の森、旧大阪市立博物館の東側、肥後石の森などの樹林です。観察は午前7時から10時までの60～90分間に、上述の場所を歩きながら双眼鏡で目視しました。

なお、この記録はタイトルにあるような、厳密に冬季のみに限ったものではありません。また、樹林生とはいえない鳥が目録に含まれていますが、上空を飛ぶだけでなく、その樹林を少なからず利用していると思われたことから、そのまま載せることにしました。

### 結果

2003年度にはシメ、アオバト、トラツグミなど、普段では目撃することが少ない種が確認されました。特にシメの確認回数が多いのが特徴的な年でした。2004年度にはサメビタキ類が多く確認されました。サメビタキ類は渡りの中継地として大阪城に立ち寄りますので越冬していませんが、春よりは秋にみられることが多かったです。2005年度は広い地域で冬鳥や留鳥の個体数が非常に少なかった年でした。私の記録でも、イカルやモズの観察頻度が低かったですし、シロハラとツグミの個体数が少なかった年だと記憶しています。その原因は、夏場の渇水や繁殖地である北国での環境悪化などが推察されていましたが、何にしても寂しい年だったと思います。2006年度には12月にクロツグミを、2月にルリビタキが確認されました。また、ヤマガラスの目撃回数が非常に多い年でした。

### まとめ

大阪城で鳥の観察をはじめた未だ間もないのですが、その短い期間にも、鳥類相の年変動が大きいこと、鳥によって好む環境が異なることが分かってきました。特に冬の公園でお馴染みの鳥、エナガ。本種の姿を大阪城で見ることは極めてまれであることも分かってきました。おそらく大海に浮かぶ孤島のように、大阪城の樹林は都市という人工的な環境に孤立した島のような場所になっているだと考えられます。



クロツグミ 藏重さん撮影